

2021 年度

事業報告

自 2021 年 4 月 1 日
至 2022 年 3 月 31 日

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団
Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)
静岡県磐田市新貝 2500 番地

目 次

【事業報告】

「事業の概況」	-----	2
「事業別の状況」		
■スポーツチャレンジ助成事業（公1）	-----	3
1. スポーツチャレンジ研究助成・体験助成	-----	3
2. 助成事業の一環としてのフォローアップ活動	-----	4
■スポーツチャレンジ体験事業（公2）	-----	6
1. ヨットスクール・競技会の開催・運営	-----	6
(1)ヨットスクールの運営		
(2)競技会の開催		
2. 水辺・自然体験・スポーツ体験等の促進を目的とした教材の提供、体験会等の開催		8
(1)教材の提供		
(2)体験会等の開催		
① タグラグビー体験会の開催		
② 全国児童 水辺の風景画コンテストの開催		
③ その他の体験会等の開催		
■スポーツチャレンジ啓発事業（公3）	-----	12
1. 表彰(スポーツチャレンジ賞)	-----	12
2. 調査研究、シンポジウム等の開催	-----	13
3. その他情報発信	-----	15

【事務報告】

1. 理事会、評議員会	-----	16
-------------	-------	----

「事業の概況」

一昨年来の新型コロナウイルス感染症の拡大は、第6波となって年明けも続き、2月には変異株を伴い首都圏他に再拡大、引き続き医療、経済はじめ、社会全体に現在も深刻な影響と不安を与えています。

私たちの日常においても、「三密回避」、「マスク・手洗い・うがい」、「外出自粛」が長期間にわたり、自由な生活を滞らせ、大切なコミュニケーションも SNS 上でしかできないなど、ストレスの多い生活を余儀なくされています。

そのようなコロナ禍ではありますが、昨年の東京オリンピック・パラリンピック及び直近での北京冬期オリンピック・パラリンピックの開催は、無観客ながら多くの若手日本人アスリートの活躍により、日本国民に感動を呼ぶ、記憶に残る素晴らしい大会となりました。我々YMFS 事務局にとっても、YMFS 体験チャレンジャーOB/OG が活躍したことは、現役チャレンジャーのモチベーション向上にも繋がり、活動を推進する原動力のひとつとなりました。

残念ながら、私たちの事業活動はコロナ禍の影響を直接受ける活動も多く、参加者の安全を最優先するため、セーリング競技会開催中止、4月スポーツチャレンジ賞表彰式延期、葉山スクールを一時休校としました。

また、法人運営でも理事会、定時評議員会を Web 会議や書面決議とするなど、関係者が一同に会する行事での運営方法の見直しを行いながら対処してきました。

個別事業として、助成事業では審査委員の協力を得て、15期生30名の活動を支援するとともに、新たに16期生となる若く優秀なチャレンジャー31名を選抜してきました。スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング(SCM)は、昨年同様、本年3月に主会場となる都内日本青年館ホテルにおいて、代表者出席とWeb会議を取り入れたハイブリッド方式で第15回を開催しました。

今回のSCMは新たな試みでしたが、入念な事前準備も奏功し、参加者の発言機会や質疑応答など臨場感と質的な面では、現実開催をも超えた価値と、新しいスタイルの参加型ミーティングとしての可能性を実感しました。

16期生の厳粛かつ暖かな受け入れの場として、また、15期生には、コロナ禍で活動が大きく制約される中、創意工夫で困難を乗り越えてきた努力や成果に、多くの激励コメントが寄せられるなど、SCMの開催目的を十分果たすことができましたものと思います。

体験事業においては、コロナ禍での第30回セーリング・チャレンジカップが中止となったものの、ジュニアヨットスクール葉山では、10月には子どもたちの安全対策やコロナ禍での対応指針に沿ったスクール運営の徹底の中での開催。また、地域を巻き込む活動、共感の輪を広げる方針の下、「ユニバーサル・スポーツ(ボッチャ)体験会」や「タグラグビー教室」、自然体験を絵にする「水辺の風景画コンテスト」では、夏休みの宿題として多くの新規小学校からの応募が増え、例年の倍近くとなる18,507点となりました。

2021年度は、当財団設立から15年(Phase I)の最終年となりました。これまで5年ごとに「参加」「認知」「波及」というテーマを設け、大きなサイクルを1回した事になります。これまで培って来た事業基盤をベースに、次の15年(phase II)に向けて、「スポーツを通じて、夢の実現にチャレンジする人たちを応援する」という当財団の原点や、個別事業の目的を再確認し、まずは最初の5年間を新中期事業方針“Value5”とし、今後の様々な時代の変化に対応しながら社会的価値を高め、「YMFSらしさ」のある持続的な活動として進化を続けていくためにスタート致します。

2022年度の具体的な事業においては、引き続きコロナ禍の影響を受けざるを得ないと捉えています子どもたちなど参加者、関係者の方々の安全を最優先し、柔軟な見直し・調整を加えながら事業を運営していく所存です。関係の皆様のご支援に改めて感謝を申し上げますとともに、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

「事業別の状況」

■スポーツチャレンジ助成事業（公1）

本事業では、世界に羽ばたく逞しい人材の育成をめざし、スポーツ医・科学、スポーツ文化など、スポーツに関連する幅広い分野から、スポーツの普及・振興や競技水準の向上につながる学術的価値の高い学問・研究活動に対し、助成（研究助成）するとともに、スポーツを通して夢・目標の実現に向かってチャレンジするアスリート、指導者、審判などの分野から、高い志、明確な目的・目標、そして具体的プロセスを持ったチャレンジスピリット、フロンティアスピリットあふれる体験活動に対して助成（体験助成）を実施しています。

1. スポーツチャレンジ体験助成・研究助成

<2021年度（第15期）の助成実績>

分野	2021年度（第15期）	※参考 2020年度（第14期）
体験助成	14件(1,496万円)	16件(1,546万円)
研究助成	16件(1,469万円)	18件(1,434万円)
合計	30件(2,965万円)	34件(2,980万円)

※第14期及び15期生体験助成は各1件辞退後の数値

<2022年度（第16期）助成対象者の募集概要>

募集期間	2021年9月1日（水）～10月29日（金）
告知方法	・ニュースリリース及び、関係大学、競技団体等への案内 ・当財団ホームページにて応募要項を掲載

助成分野・区分		応募資格	助成金額/件	助成件数
体験助成	ジュニア	ジュニア世代の国際大会での実績を有する、2009年4月1日以前生まれ（応募時、中学1年生以上）の個人および、これによって構成されるチーム	上限 50 万円	ジュニア・ベーシック
	ベーシック	世界選手権など国際レベルを目指す、2007年4月1日以前生まれ（応募時、中学3年生以上）の個人および、これによって構成されるチーム	上限 100 万円	合わせて 10 件程度
	アドバンスド	世界選手権など国際レベルでの実績を有する、2007年4月1日以前生まれ（応募時、中学3年生以上）の個人および、これによって構成されるチーム	上限 150 万円	若干名
研究助成	奨励	助成期間中、大学院博士課程（博士後期課程）に在籍中または修了した方（学位未修得者を含む）のうち、1991年4月2日以降生まれの方。	上限 60 万円	5 件程度
	基本	助成期間中、大学や研究機関等で研究職として活動に従事する、1981年4月2日以降生まれの方 ※教授職又は教授職相当の職位の方は除きます	上限 120 万円	10 件程度

※助成期間は、2022年4月から1年間。

<第16期審査委員会開催>

審査委員会	審査分野	日 程	会 場	審査委員
第1回 (書類審査)	体験・研究助成	2021年12月4日(土)	都内日本青年館ホテル	14名
第2回 (面接審査)	体験助成	2022年1月22日(土)	都内日本青年館ホテル	4名
	研究助成	2022年1月23日(日)		10名

<第16期応募、採択の状況>

※助成対象者詳細は別紙掲載

分 野	2022年度(第16期)			※参考 2021年度(第15期)		
	区 分	応募件数	採択件数	区 分	応募件数	採択件数
体験助成	ジュニア	3	1	ジュニア	6	2
	ベーシック	36	11	ベーシック	18	9
	アドバンスド	14	2	アドバンスド	19	4
	(計)	53	14	(計)	43	15
研究助成	奨 励	22	5	奨 励	27	7
	基 本	31	12	基 本	26	9
	(計)	53	17	(計)	53	16
	(合 計)	106	31	(合 計)	96	31

<第16期助成金額(採択時)>

分 野	2022年度(第16期)	※参考 2021年度(第15期)
体験助成	14件(1,365万円)	15件(1,596万円)
研究助成	17件(1,665万円)	16件(1,469万円)
助成額合計	31件(3,030万円)	31件(3,065万円)

<第16期助成金贈呈式>

※第15回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの中で開催

開催日	会 場	出席対象者
2022年3月26日(土) 9:30~10:00	都内日本青年館 ホテル	第15・16期助成対象者他、役員、審査委員が出席。 ※助成対象者代表2名が会場出席、以外はオンライン出席。

2. 助成事業の一環としてのフォローアップ活動

チャレンジの成果と同様に、そこに至るプロセスを大切にしている当財団の助成制度では、助成対象者に対して、PDCA(Plan Do Check Action)を基軸に、活動の振り返りや、異分野交流を通じた相互刺激、気づきの機会を提供するなどフォローアップ活動のプログラムを実施しています。

(1) 第15期四半期活動報告書の提出

助成開始時に提出されたチャレンジ年間計画に対し、四半期ごとの進捗状況を、CNS(チャレンジャーズ・ネットワーク・システム)を介して報告させ、審査委員から一人一人にアドバイスをを行いました。

(2) 第15期中間報告会の開催

前年度に続き Web 会議方式で開催した中間報告会では、チャレンジャーから上半期の活動経過を報告し、チャレンジャー相互や審査委員も含めた活発な質疑応答がなされました。

<2021 年度(第 15 期)中間報告会>

日 程		主会場及び開催方式	チャレンジャー	審査委員
第 1 回	10 月 2 日(土)	浜松市遠鉄百貨店会議室を主会場に、 参加者はオンラインで参加	7 名	12 名
第 2 回	10 月 3 日(日)		7 名	12 名
第 3 回	10 月 23 日(土)		8 名	8 名
第 4 回	10 月 24 日(日)		8 名	15 名

(3) 成果報告会および修了式について

スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングは、年度末の時期に現・新チャレンジャーと審査委員が一同に会して 1 年間のチャレンジ成果や課題を確認するとともに、異分野の交流を通じて多様な価値観に触れ、一人ひとりがスポーツについて「語り」「学び」「考える」機会を提供することを目的として開催している行事です。

コロナ禍の中での第 15 回は、前年度に続き Web 会議方式で開催しましたが、参加者の発言機会や質疑応答など、臨場感と質的な面では、現実開催を超えた価値と、新しいスタイルの参加型ミーティングとして今後の活用に可能性を実感しました。

<第 15 回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの概要>

日 程	主会場及び開催方式	議 題	会場+Web 会議出席者
2022 年 3 月 26 日(土)	都内日本青年館ホテルを 主会場とする Web 会議方式	<ul style="list-style-type: none"> ・第 16 期生助成金贈呈式 ・特別講演 ・第 15 期生成果報告会他 	<ul style="list-style-type: none"> ・第 16 期生 25 名 ・第 15 期生 26 名 ・審査委員 12 名

(4) スポーツチャレンジ助成表彰

現在、または過去に本助成制度を受け、成果報告会等で報告されたチャレンジャーの中から、優れた成果を上げ、スポーツ振興に貢献されたチャレンジに対し、審査委員会での審議を経て、スポーツチャレンジ助成「優秀賞」を贈呈したほか、東京オリパラ・北京冬季オリパラに出場した選手に対して規定に基づいて「激励賞」を贈呈し、更なるチャレンジを支援しました。

- ① 優秀賞 助成特別賞に準ずる成果及び、貢献が認められた者を表彰する。
- ② 激励賞 当該年度においてオリンピック、パラリンピック、デフリンピック等の国際的なスポーツ総合競技大会等に日本を代表して出場する者を表彰する。

《表彰対象者》

賞名称	氏 名	助成 区分	受賞理由	表彰
優秀賞	川島将人	研究 奨励	アスリートは骨格筋損傷の程度によってアイシングを使い分けるべきか？	第 14 回 SCM 2022.03.27.
激励賞	梶原悠未	体験OB	東京オリンピック(自転車競技)出場 ※銀メダル	2021.12.04
	羽根田卓也	〃	東京パラリンピック(カヌースラローム)出場	〃
	網本麻里	〃	東京パラリンピック(車いすバスケットボール)出場 ※銀メダル	〃
	鈴木 徹	〃	東京パラリンピック(棒高跳び)出場	〃
	椿 浩平	〃	東京パラリンピック(トライアスロン伴走)出場 ※銅メダル	〃

激励賞	辻 沙絵	体験OB	東京パラリンピック(陸上短距離) 出場	2021.12.04
	友野友理	〃	東京パオリンピック(卓球) 出場	
	山本 篤	〃	東京パラリンピック(走り幅跳び) 出場	〃
	堀島行真	〃	北京オリンピック(スキーマーグル) 出場 ※銅メダル	個別対応
	本堂杏実	〃	北京パラリンピック(スキーアルペン) 出場	〃

(5) 情報公開

助成対象者のチャレンジの実像や、フォローアップ活動の様子などを社会に情報発信することを通して、スポーツにかかわる人たちの意識向上を促すとともに、スポーツの持つ価値や有用性を社会に訴求していくことを目的に、ホームページなどを通じてさまざまな情報を広く社会に発信しています。

■スポーツチャレンジ体験事業（公2）

社会や家庭生活における環境の変化などにより、子どもたちの体力・運動能力の低下や、水辺・自然体験の機会が減少していると言われる中で、次代の人材育成の基礎となる、心身ともに健全な子どもたちの育成をめざし、スポーツや自然がより身近なものとなるさまざまな運動機会や水辺・自然体験機会の創出をめざしています。

本事業では、「子どもたちのスポーツ現場のより近くに」を大切な視点に置いて、私たちの持つ事業リソースを活かし得る分野で各種体験機会を提供しています。

1. ヨットスクール・競技会の開催・運営

(1) ヨットスクールの運営

心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を目的に、小学生から高校生を対象として、通年型(4月から翌年3月)のヨットスクールを、神奈川県葉山町葉山マリーナを拠点に運営しています。

世代や、個々のセーリングの技術レベルに合わせた独自のクラス分けと、これに沿ったカリキュラムにより、原則、月2回から3回の通常講習を行なっています。

セーリング指導、強化練習、水辺活動・安全対策、加えて、近年の取組みとして、逞しい心や競う力も養うことを目的に、葉山スクール周辺で開催される大会に積極的に参加するなど、より総合的な視点でのプログラムを実施しています。2021年度は33名のスクール生を対象に実施しました。

<指導方針>

- ① 年度初めの段階で、1年間の目標を設定し、PDCAに基づく指導
- ② セーリングに関する適切な知識、経験、技能を備えた指導者による適切な指導
- ③ 逞しい心や競う力を養う目的から、葉山スクール周辺で開催される対外レースに積極的に参加
- ④ 夏季には集中的に取り組む強化練習の実施
- ⑤ 「自然・水辺体験学習」を取り入れた、より総合的なプログラムを通じて、海、水辺、海事に関する教育
- ⑥ スクールの指導理念や活動状況を共有し、理解協力を促進する目的で保護者会を年2回開催

<スクール講習クラス>

- | | |
|-------------------|-----------------------------|
| ① ベーシッククラス(入会初年度) | 毎月2回(年間24回) |
| ② マスタークラス | 毎月2回(年間24回) |
| ③ エキスパートクラス | 毎月2回(年間24回) |
| ④ クラブ | 毎月2・3・4回(年間24・36・48回)の中から選択 |

<コロナ禍での2021年度のスクール活動>

新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、首都圏を中心に緊急事態宣言が発令される中で、子どもたちや指導者の安全を最優先するため、スクールの全活動を2021年5～9月の期間休校としました。また、スクールでの講習再開に際しては、以下の対応指針を策定し、指導者、保護者、スクール生に周知して対応してきました。

<コロナ禍における対応指針>

- ① ハーバー内での活動時間を短縮し、できるだけ他の利用者との過密状態を回避し、接触を低減するため、参加対象者を2グループに分けて開催。
- ② 自宅出発前までに検温を実施し、指導者代表に報告する。また、以下の場合は参加を見合わせる。
 - ・ 体調不良(37.0度以上の発熱、咳、咽頭痛、味覚・嗅覚異常等)の場合
 - ・ 同居家族や身近な知人に感染者及び感染が疑われる人がいる場合
- ③ 陸上(マリーナ施設内)におけるマスクの常時着用の徹底。
- ④ 人との会話は1m以上の距離を取って行う。
- ⑤ こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を徹底する。
- ⑥ 更衣室の利用は、周囲の利用者と距離をとってできるだけ短時間で利用する。
- ⑦ タオルやウェア、備品・艀装品等の貸し借り、使いまわしは行わない。
- ⑧ 全体ミーティングは行わず、グループ毎に屋外で行う。
- ⑨ 感染した際は、スクール事務局に速やかに連絡する。

<通常講習以外の主な活動>

実施内容		日程	場 所
<2021年>			
1	第21回夢の島レガッタ	5名参加 6月27日	若洲ヨット訓練所
2	2021レーザー関東選手権	3名参加 7月10・11日	若洲ヨット訓練所
3	2021海と風レース	5名参加 7月23日	蒲郡海陽ヨットハーバー
4	2021ジュニアオリンピックカップ	3名参加 8月14日～16日	和歌山セーリングセンター
5	第31回ミキハウスカップ東京2021	1名参加 10月24日	若洲ヨット訓練所
6	第39回東日本OP選手権	7名参加 10月30・31日	葉山沖
7	第35回小澤杯ヨットレース	2名参加 11月6・7日	江の島沖
8	2021藤沢チャンピオンレース	4名参加 11月14日	江の島沖
9	第53回全日本OP選手権	1名参加 11月20日～23日	別府北浜ヨットハーバー
10	2021 Laser All Japan Championships	3名参加 11月20日～23日	山口光市スポーツ交流村
11	第18回クリスマスカップ	6名参加 12月18・19日	江の島沖
<2022年>			
12	2022 OP ナショナルチーム選考会	2名参加 2月9日～13日	蒲郡海陽ヨットハーバー

(2) 競技会の開催(セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖)

本事業は、心身ともに健全な子どもたちの育成を目的に、全国のジュニア・ユースセイラーが一堂に会し、日頃の練習成果や、次年度の目標確認の場として、また、選手・指導者同士の交流や技術向上に資するため、選手及び指導者を対象として、元五輪日本代表等による技術指導や、レースにおける戦略、戦術に関する勉強会を行うなど、「学べるレガッタ」を特徴として開催しています。

※今年度は第 30 回として以下の大会開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため大会を開催中止しました。

<第 30 回 YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖の概要 (当初予定)>

開催日時	2022 年 3 月 19 日(土)～21 日(祝)(3日間)
開催場所	静岡県立三ヶ日青年の家
主催	(公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団
公認団体	(公財)日本セーリング連盟(承認番号 2021-44)
運営協力	NPO 法人静岡県セーリング連盟
助成	(独法)日本スポーツ振興センター「スポーツ振興くじ助成金」 JSC 助成金交付決定額 5,064,000 円 当該助成金は、指導講師、医師、審判員・スタッフ等への謝金、大会役員への宿泊費・交通費、運営艇等の借用料・運送料等に使用予定です。 
協賛	三井住友海上火災保険株式会社、株式会社ノースセールジャパン、パフォーマンスセイルクラフトジャパン株式会社
後援	スポーツ庁、公益財団法人日本スポーツ協会、静岡県、静岡県教育委員会、公益財団法人静岡県スポーツ協会、浜松市、浜松市教育委員会、公益財団法人浜松市体育協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、静岡朝日テレビ、NHK 静岡放送局、静岡第一テレビ、テレビ静岡、K-mix、FM Haro!、日本オプティミストディンギー協会、日本レーザークラス協会
協力	静岡県立三ヶ日青年の家、南平自治会
競技種目	・1人乗り:レーザー 4.7 級、レーザー ラジアル級 OP級(初級・上級) (注)レーザー 4.7 級、レーザー ラジアル級は、2021 年ユース世界選手権選考を兼ねる、

※2021 年度は、助成金交付なし

2. 水辺・自然体験・スポーツ体験等の促進を目的とした教材の提供、体験会等の開催

(1) 教材の提供

本事業は、スポーツ教材の活用を通じて、子どもたちが楽しく体を動かすきっかけとなり、スポーツ好きな子どもの増加、体力・運動能力の向上、心身の健全な育成の一助となることを目的に、全国の幼稚園、小学校、ジュニアスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブなどを対象に実施しています。教材提供先には、活用報告書の提出を求め、模範的な活用事例は、当財団ホームページ等に掲載して社会啓発に努めています。

<2021 年度「スポーツ教材の提供」の概要>

募集期間	2021 年 2 月 26 日(金)～4 月 19 日(月)
活用対象	幼児から中学生 (タグラグビーセットは小学生以下)
提供先団体	「子どもたちがスポーツを楽しみ、好きになる取組み」を計画している団体(保育園、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、特別支援学校、児童養護施設、児童クラブ、教育委員会、体育協会、スポーツ少年団・クラブ・スクールなどスポーツに取り組む団体)
教材内容	① ボッチャセット ② タグラグビーセット
募集方法	当財団ホームページおよび教育委員会など通じて告知
選考方法	書類審査の上、第三者による抽選により決定
結果通知	当財団ホームページに抽選結果掲載後、提供先団体へメールにて通知

<申請状況および抽選結果> ※スポーツ教材提供先詳細は別紙掲載

申請数	772 団体(前年度 657 団体)
抽選会	4 月 28 日(水)公益財団法人日本スポーツ協会 泉正文 副会長による抽選
抽選結果	120 校・団体(前年度 120 校・団体)

(2) 体験会等の開催

① タグラグビー体験会の開催 「はじめてのタグラグビー教室」

ヤマハ発動機(株)の協力を得て、直接指導可能な当財団所在地の周辺地域(静岡県西部地域の磐田市・袋井市・掛川市・周智郡森町)をモデルエリアとして、当地区の小中学校を対象に募集を行い、申請のあった 1 校に実施しました。運動が得意な子ども、苦手な子どもも楽しく一緒に取り組めるタグラグビーに、児童 61 名と教員が参加しました。

<2021 年度 実施校>

実施した小学校		日 程	児童対象
1	掛川市立佐東小学校	10 月 11 日(月)5・6 時限	4 年生 20 名、5 年生 20 名、 6 年生 21 名
計	小学校 1 校	2 時限	61 名

② 全国児童 水辺の風景画コンテストの開催

本事業は、子どもたちの水辺体験や自然体験の促進が社会的な課題となっている中で、幼児・児童を対象に、海や川などの水辺に出かけ、そこで得たさまざまな体験をテーマに絵を描くことによって、水辺への興味・関心を高め、また、表現力や感性を育むことを目的として絵画コンテストを開催しています。

このコンテストは、水辺の絵を描くことを一つのきっかけとして、実際に海や川など水辺や自然の中での実体験を促す趣旨から体験事業に位置付けて運営しています。

<第33回全国児童 水辺の風景画コンテストの概要>

募集期間	2021年6月21日(月)～9月30日(木)
対 象	幼児、小学生
募集方法	当財団ホームページおよび募集リーフレットなどにて告知
協 賛	Love the Earth 実行委員会、三井住友海上火災保険(株)、マルマン(株)、(株)ワイズギア
後 援	文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、(一社)日本マリン事業協会、(公社)日本ユネスコ協会連盟、(NPO)ジャパンゲームフィッシュ協会、(一社)日本マリーナ・ビーチ協会、(独法)国立青少年教育振興機構、(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会
審査日程	予選会:10月12日(火)、13日(水)、19日(火) 最終審査会 :10月26日(火)
受賞者発表	11月10日(水)
表 彰	入賞作品 23 点 最優秀賞 : 文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞 特別賞 : 審査員長賞、日本マリン事業協会会長賞、日本ユネスコ協会連盟賞、日本マリーナ・ビーチ協会会長賞、ジャパンゲームフィッシュ協会会長賞、国立青少年教育振興機構理事長賞、日本海洋レジャー安全・振興協会会長賞、ヤマハ発動機賞、YMFS特別賞 優秀賞 : 金・銀・銅賞(幼児、小学校低学年・高学年各部門) 入選作品 353 点 (秀作 178 点、佳作 175 点)
応募状況	作品数:18,507 点 (前年度 6,556 点) 団体数:1,047 団体 (前年度 396 団体)

<審査会の開催>

審査会	内 容	日 程	会 場	審査員
予選会	専門家(画家)による審査を行い、入選作品決定	10月12日(火) 13日(水) 19日(火)	ヤマハ発動機(株) コミュニケーションプラザ	2名
最終審査会	専門家、後援省庁・団体代表者による審査で入賞作品決定	10月26日(火)	都内御茶ノ水ソラシティ	14名

<各大臣賞表彰式>

※コンテスト入賞者の詳細は別紙掲載

賞 名	日 程	開催会場	受賞者/贈呈者
文部科学大臣賞	12月14日(火)	愛知県半田市 つばさ幼稚園	受賞者:村井 里帆さん(年中) 贈呈者:YMFS 小島事務局長
国土交通大臣賞	12月8日(水)	神奈川県横浜市 精華小学校	受賞者:藤東 優花さん(3年生) 贈呈者:国土交通省関東地方整備局 京浜港湾事務所副所長 高谷 浩一郎氏
環境大臣賞	12月14日(火)	北海道中標津町役場	受賞者:中村 敢太朗さん(4年生) 贈呈者:中標津町長 西村 穰氏
農林水産大臣賞	12月1日(水)	神奈川県横浜市立 日枝小学校	受賞者:小島 穰治さん(4年生) 贈呈者:YMFS 小島事務局長

<入賞作品の紹介>

情報公開	当財団ホームページにて掲載
作品展示	(1)ヤマハ発動機(株)コミュニケーションプラザ 2F(1~2月)にて展示
	(2)「ジャパンインターナショナルボートショー2022」会場での展示公開 3月31日(木)~4月3日(日)パシフィコ横浜&横浜ベイサイドマリーナ

③ その他の体験会等の開催

近年の社会や家庭など生活環境の変化を背景に、子どもたちが自然の中や水辺での活動する機会や、運動機会が減少していると言われていた中で、身近にこれらを体験する機会を提供することを通じて、心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を支援すべく、当財団がこれまでの事業で培ってきた知見やネットワーク等を活用し、当財団所在地周辺の地域を対象に体験機会を提供しています。

・「親子で学ぶ水辺の体験会」

静岡県浜名湖三ヶ日青年の家を会場に、7~8月に開催を予定していた「親子で学ぶ水辺の体験会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

・「パラスポーツ(ボッチャ)体験会」 チャレンジ!ユニ★スポ

パラスポーツ「ボッチャ」は、障害者スポーツとして生まれた競技ですが、幅広い年齢層や運動能力、障害の有無にかかわらず、参加者誰もが楽しめ交流できるスポーツです。

スポーツを通じて多様性への理解を深める機会として、静岡県障害者スポーツ協会の協力を得て、静岡県下11の小学校で体験授業「チャレンジ!ユニ★スポ」を開催し、児童、教員911名が楽しく体験しました。

また、開催校の協力を得て、参加児童にアンケート調査を実施(体験前、後、数か月後、1年後)し、子どもたちの障害や障害者スポーツなどに関する意識や視点がどのように変化するかを確認し、調査報告書を発行しました。

<パラスポーツ(ボッチャ)体験会開催実績>

回	日程	学 校 名	参 加 者 数		
			児童生徒	教員	合計
1	7月5日(月)	浜松市立積志小学校	140	5	145
2	7月9日(金)	伊東市立宇佐美小学校	68	5	73
3	7月15日(木)	森町立宮園小学校	38	4	42
4	10月5日(火)	静岡市立清水不二見小学校	80	4	84
5	10月7日(木)	伊豆の国市立長岡北小学校	22	2	24
6	10月15日(金)	静岡市立清水江尻小学校	62	4	66
7	11月11日(木)	浜松市立中瀬小学校	120	5	125
8	11月16日(火)	静岡市立森下小学校	62	2	64
9	11月25日(木)	袋井市立袋井北小学校	178	5	183
10	12月6日(月)	富士市立岩松北小学校	64	2	66
11	12月8日(水)	掛川市立原谷小学校	36	3	39
合 計			870	41	911

■スポーツチャレンジ啓発事業 (公3)

本事業では、誰もがスポーツに親しみ、チャレンジと活力にあふれる社会の実現をめざし、事業活動の現場から、スポーツの持つ価値や有用性、環境整備など、スポーツ振興に関する情報発信や提言を行っています。具体的には、1. スポーツ振興に大きく貢献した人物・団体を表彰するスポーツチャレンジ賞。2. スポーツ振興に関わる社会環境や実態調査を元に、社会への提言活動を担う調査研究プロジェクト。3. 当財団の各事業活動に関する情報などを社会に発信する活動を行っています。

1. 表彰 (スポーツチャレンジ賞)

本事業は、スポーツ振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物・団体を表彰するものです。スポーツに関する技術、指導、研究、普及、ジャーナリズムなど幅広い分野において、輝かしい功績をあげ、且つ、これまで注目を浴びることの少なかった「縁の下の力持ち」的な人物・団体を表彰する制度で、「功労賞」と「奨励賞」の2部門から構成しています。

<本賞の概要>

功労賞	内 容	長年もしくは過去に行われ、現在のスポーツ振興の礎となるような貢献や、先駆的実績を誇るチャレンジで、注目を浴びることの少なかった、本来高い評価を得るに相応しい、「縁の下の力持ち」的な存在を表彰します。
	対象者	既に優れた成果をあげ、功をなした人物・団体
奨励賞	内 容	短期的もしくは中期的に行われ、その年、極めて高い成果をあげ、今後のスポーツ振興に大きな影響力の発揮が期待されるチャレンジで、注目を浴びることの少なかった本来高い評価を得るに相応しい、「縁の下の力持ち」的な存在を表彰します。
	対象者	その年、高い成果をあげ、今後さらなる成長が期待される人物・団体
後 援	(公財)日本スポーツ協会、(公財)日本オリンピック委員会 (公財)日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会	

<2020年度(第13回) スポーツチャレンジ賞受賞者の表彰> ※ 2020年度からの継続活動

候補者募集	2020年9月14日(月)～10月31日(土)	
選考委員会	第1回	2020年12月6日(日) 日本青年館ホテル(Web会議)
	第2回	2021年1月23日(土) ヤマハ発動機(株)コミュニケーションプラザ(Web会議) 24日(日) ヤマハ発動機(株)コミュニケーションプラザ(Web会議)
贈呈式	2020年4月28日(水) 都内ヤマハ発動機東京事務所	
受 賞 者	功労賞	【功労賞】 該当者なし
	奨励賞	【奨励賞】 フォトグラファー 越智貴雄 氏 「写真を通し、パラアスリートのアスリートとしての活躍・魅力を伝播」
情報公開	<ul style="list-style-type: none"> 贈呈式の模様は当財団ホームページにて公開・掲載 受賞者の功績や、知られざる足跡など詳細情報を、当財団ホームページ、スペシャルウェブコンテンツ(特集記事)「BACK STORIES(バック・ストーリーズ)」の中で紹介 	

<2021 年度(第 14 回) スポーツチャレンジ賞の選考>

候補者募集	2021 年 9 月 15 日(水)～10 月 31 日(日)
選考委員会	第 1 回 2021 年 12 月 4 日(土) 日本青年館ホテル(Web 会議) 第 2 回 2022 年 1 月 22 日(土) 日本青年館ホテル(Web 会議) 23 日(日) 日本青年館ホテル(Web 会議)
贈呈式	※日程・会場等は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を勘案して決定
受賞者	【功労賞】 伊藤裕子 氏 (スイミングコーチ) 「障害がある子ども向けスイミングスクールでだれもが楽しく学べる機会を提供」 【奨励賞】 山下良美 氏 (サッカー1級審判員・女子国際主審) 「女子国際主審・サッカー1級審判員として国内外の試合で主審担当 スポーツ界における女性活躍を牽引」
情報公開	・贈呈式の模様は当財団ホームページにて公開・掲載予定 ・受賞者の功績や、知られざる足跡など詳細情報を、当財団ホームページ、スペシャルウェブコンテンツ(特集記事)「BACK STORIES(バック・ストーリーズ)」の中で紹介

2. 調査研究、シンポジウム等の開催

スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的な課題解決に寄与する為、当財団の特徴を活かし得る分野において調査研究を行い、その成果の社会活用を促進する活動を行っています。

(1) 障害者スポーツプロジェクト

・10 年目となる障害者スポーツ分野では、① 障害者スポーツ選手のキャリア調査、② テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査、③ パラリンピアンに対する社会的認知度調査、④ ユニ・スポ体験での児童の意識変容調査を実施し、それらの結果を調査報告書として発行しました。また、12 月にシンポジウム「パラリンピック報道とパラリンピアン認知度における社会発信の変化」を WEB 開催しました。

・報告書の発行

2022 年 3 月に報告書を発行、Web サイトに掲載

・報告書タイトル

「障害者スポーツを取巻く社会的環境に関する調査研究」

～障害者スポーツ選手キャリア、テレビ放送、選手認知度、ユニ・スポ体験の効果に着目して～

・報告書の概要

【第 1 章】障害者スポーツ選手のキャリア調査

障害者スポーツ・トップアスリートたちのスポーツを始めるに至った経緯や活動状況をヒアリング

【第 2 章】テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査

東京 2020 パラリンピック大会前後での、障害者スポーツのテレビでの露出状況を調査

【第 3 章】パラリンピアンに対する社会的認知度調査

東京 2020 パラリンピック大会開催後のパラリンピアンに対する社会的認知度を調査

【第 4 章】シンポジウム抄録集

「パラリンピック報道とパラリンピアン認知度における社会発信の変化」開催レポート

【第 5 章】ユニ・スポ体験での児童の意識変容調査

ボッチャ体験会を通して、子供たちの障害や障害者スポーツに対する意識変化を調査。

(2) シンポジウムの開催

2021年夏開催された東京2020パラリンピックを含めた過去4大会のTV放送量の変化やパラリンピアンへの認知度の状況、そしてパネルディスカッションでは障害者スポーツ関係者をパネリストに迎え、それぞれの立場から障害者スポーツの環境変化や課題について参加者の皆様と共に考える場として開催しました。

シンポジウムテーマ:「パラリンピック報道とパラリンピアンへの認知度における社会発信の変化」

・開催日時：2021年12月17日(金) 18:00～19:30

・開催方式：WEB開催

・参加者数：約100名

・登壇者(五十音順)

(パネリスト)

網本麻里氏 (車いすバスケットボール選手、北京・東京パラリンピック日本代表選手)

千葉絵里菜氏 (元NHKリポーター、電動車いすユーザー)

鉄谷美知氏 (共同通信社 運動部記者 パラスポーツキャップ)

山本篤氏 (プロ陸上競技選手、北京・ロンドン・リオ・東京パラリンピック日本代表選手)

(コーディネーター)

小淵和也氏 (笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 政策ディレクター)

(全体統括)

藤田紀昭氏 (日本福祉大学 スポーツ科学部 学部長 教授)

(3) トップスポーツプロジェクト

・トップスポーツ分野では、地域におけるスポーツ振興に繋げることを目的に、その基礎的な属性、運動/スポーツの実施状況などとともにトップスポーツチームの存在や活動に対する地域住民の意識について、調査を実施しました。具体的には、日本各地の6都市を選定し、NPB 球団ファンとJリーグサポーターの(1)チーム(クラブ)への関心・関与、(2)「性別」、「年齢」、「ファン歴」、「運動経験」、「部活動経験」などの特徴、(3)チーム(クラブ)の地域貢献に対する評価、(4)ソーシャルキャピタル、(5)地域愛着について調査を行い、2021年2月に結果を発表しました。

これにより、トップスポーツに関する調査は、2018年度はスポーツ組織側の取り組みについて報告、2020年度はスポーツ組織の取り組み(社会連携活動)に対する自治体の「重視度」、「満足度」、「期待度」について報告、2021年度は地域におけるトップスポーツクラブ・球団のファンの特徴についての報告となりました。

・報告書の発行

2022年2月に報告結果をWebサイトに掲載

・報告書タイトル

『トップスポーツと地域住民に関する調査』

～地域におけるトップスポーツクラブ・球団のファンの特徴から

・報告書の概要

【第1章】地域におけるトップスポーツクラブ・球団への関心・関与

AIDMA や AISAS といったマーケティングの消費行動モデルに基づき、クラブ・球団に対するファンの関心・関与の程度(関与度)に関する調査結果を報告。

【第2章】地域におけるトップスポーツクラブ・球団のファンの特徴

ファンの特徴について、「性別」、「年齢」、「ファン・サポーター歴」、「出生地」、「運動習慣」、「部活動経験」といった項目の調査結果を報告。

【第3章】地域におけるトップスポーツクラブ・球団への社会的評価

地元トップスポーツクラブ・球団について、ファン・サポーターのクラブ・チームの評価に関する結果を報告

【第4章】トップスポーツクラブ・球団ファンのソーシャルキャピタル

トップスポーツクラブ・球団が地域に存する意義を考えるにあたり、ファンと非ファンのソーシャルキャピタルの特徴について調査した結果を報告。

【第5章】トップスポーツクラブ・球団ファンの地域愛着

トップスポーツクラブ・球団のファンと非ファンを「地域愛着」という視点から評価する調査を実施し、それぞれの特徴について報告

3. その他情報発信

スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与することを目的に、事業活動などに関する情報をホームページなどを通じて広く社会に対して発信しています。

また、刊行物やリリース発行などでの広報活動の充実にも努めています。

情報発信手段	概 要
ホームページ	<p>① 主な掲載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業活動の告知(案内、募集、結果報告など) ・第15期スポーツチャレンジ助成対象者の実像を紹介 ・第13回スポーツチャレンジ賞受賞者の人物像を紹介 (BACK STORIES) ・ジュニアヨットスクール葉山の活動紹介 ・スポーツ教材の提供の模範的な活用事例の紹介 ・第33回全国児童 水辺の風景画コンテストの実施報告 ・調査研究活動に関する報告書の情報など <p>② ページビュー 2021年度 402,339 2020年度 287,250</p>
ニュースリリース	・スポーツチャレンジ助成 助成対象者募集、対象者決定など計10件
Face Book	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツチャレンジ助成事業における助成対象者(OB・OG含む)の活動状況。 ・各事業(行事)の様子などについて事業関係者等を対象として情報共有を促進。
刊行物	<ul style="list-style-type: none"> ・YMFS通信 毎月配信 (配信先 約700か所) ・2020年度年間事業報告書 Yearly Digest 700部 ・2021年度障害者スポーツを取り巻く社会的環境に関する調査研究 2,000部

【事務報告】

1. 理事会、評議員会

<理事会>

回	開催日時・会場	議 事
1	2021年 5月 21日(金) Web 会議方式での開催 ヤマハ発動機(株)コミュニケー ーションプラザ C304	<p><決議事項></p> <p>第1号議案 2020年度 事業報告承認の件(承認可決) 第2号議案 2020年度 計算書類等承認の件(承認可決) 第3号議案 2021年度 定時評議員会招集の件(承認可決) 第4号議案 評議員候補者推薦の件(承認可決) 第5号議案 審査委員選任の件(承認可決) 第6号議案 評議員選定委員会規則改正の件(承認可決)</p> <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期中期事業方針(2022~2026年度)の検討経過報告 ・代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告他
2	2021年 10月 22日(金) Web 会議方式での開催 ヤマハ発動機(株)コミュニケー ーションプラザ C304	<p><決議事項></p> <p>第1号議案 次期中期事業方針承認の件(承認可決) 第2号議案 助成金交付規程改正の件(承認可決)</p> <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度上半期事業概況及び下半期事業活動 ・2021年度中間決算及び収支見通し ・代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告
3	2021年 2月 25日(金) Web 会議方式での開催 ヤマハ発動機(株)コミュニケー ーションプラザ C304	<p><決議事項></p> <p>第1号議案 2022年度事業計画承認の件(承認可決) 第2号議案 2022年度収支予算承認の件(承認可決) 第3号議案 資金調達及び設備投資の見込承認の件(承認可決)</p> <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度事業概況及び収支見通し ・2022年度の事業体制その他 ・代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告他

<評議員選定委員会>

回	開催日時・会場	議 事
	2021年 6月 11日(金) 書面決議	<p><評議員選任の件></p> <p>(重任) 相浦 勇二、泉 正文、佐久間 優、塩谷 立、 武井 一浩、晝馬 明、柳 弘之</p> <p>(新任) 山田 登志夫</p>

<評議員会>

回	開催日時・会場	議 事
定 時	2021年6月11日(金) Web会議方式での開催 ヤマハ発動機(株)コミュニケーションプラザ C304	<決議事項> 第1号議案 2020年度計算書類等承認の件(承認可決) 第2号議案 監事2名選任の件(承認可決) <報告事項> ・2020年度事業報告、2021年度事業計画報告 ・次期中期事業方針検討経過報告 ・評議員選定委員会に於ける評議員選任の報告他